

- 1 単元名 目的による表し方のちがいを考えよう
教材名「広告と説明書を読みくらべよう」（東京書籍4年上）

2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元の重点指導事項であるC（1）エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」を指導するため、言語活動例C（2）イ「記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること」と関連付けて「日用品の取扱い説明書から必要な情報を取り出し、広告を作る活動」を単元を貫いて位置付けた。これにより、児童は「製品のセールスポイントを伝え、お客さんが買いたくなるような広告を作る」という目的意識を明確にして、主体的に教材文を読む学習に取り組むことができるようになると思われる。

3 単元について

- (1) 児童観（男子*人 女子*人 計*人）

① 児童の読書傾向から		
説明文を読書の対象としている児童		*人
広告に使われる言葉に興味をもっている児童		*人
② 既習の学習状況から		
中心となる語や文をとらえて読める児童		*人
文章の要点をとらえて的確に要約できる児童		*人
目的に応じて適切に引用できる児童		*人

本学級の児童は、本が好きな児童が多いが、長文や漢字が苦手な児童もいる。また、昨年度の県学力診断のためのテストの結果を見ると、読むことが県平均正答率を大きく下回っている。4年5月「ヤドカリとイソギンチャク」（説明文）の学習でも、「問い」と「答え」など段落のつながりを理解するのが難しい児童が多かった。しかし、個々の段落を絵と文で再構成して話す活動を通して内容を捉える力がついてきた。本教材でも、取り上げられている広告や説明文をイメージで捉えてしまったり、言語に直して説明できなかつたりする可能性が大きい。

- (2) 教材観

本教材は、広告と説明書を比べて読む活動を通して、文章には、目的によって表し方に違いがあることを理解し、効果的な述べ方の工夫を読み取る力をつけることをねらいとしている。ここでは、広告のちらしと取り扱い説明書という実生活に即した二種類の文章が取り上げられている。二つの文章は、同じ商品について説明する文章でありながら、書かれている事柄や説明の仕方、写真、色、レイアウトなどが大きく異なっている。二つの文章の目的をおさえたうえで、なぜ表し方に違いがあるのかを考える活動を通して、書き手の意図を想像させ、目的による表し方の違いやその効果を読み取る力を育成したい。

- (3) 指導観

本単元では、「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」（C読むことエ）が確実に実現できるようにしていく。本文は、話題の提示→本論→課題の提示という構成であり、最後は読者が両者を比較する指標が記されている。そこで、研究テーマ「学んだことや考えたことを豊かに表現できる児童の育成」の観点から、読み取ったり考察したりした結果を相手や目的に応じて「書く力」につなげていきたい。そこで、本教材では単元を貫く言語活動として「お客さんが買いたくなるような日用品の広告を書く」活動を位置づける。身近な日用品の説明書を読み取ったことを自分の表現活動に応用させ、読みを一層確かなものにしていきたい。また、広告や説明書の理解を深めるために、音読を重視したい。さらに、横書きの読み方、写真や絵、色やレイアウトの効果も言語化し、関心を高めながら、自分の考えを自信をもって表現できるようにしたい。

4 単元の目標

- 関心・意欲・態度 読むこと 読む目的を明確にして、二つの文章を比べて読もうとする。
- 読むこと 目的や必要に応じて、中心となる言葉や文をとらえて読み、再構成することができる。
- 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くことができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・能力
・お客さんが買いたくなるような広告を作るという目的を明確にして、文章を読み比べようとしている。	・表現の仕方や工夫を比較しながら読み、広告と説明書の違いについて読み取っている。 ・広告の読む相手と目的を考え、他の製品と比べて特に優れている点を表した言葉を用いて、広告を書いている。	・広告と説明書のように、書き手の意図によって表現の形式や言葉遣いが変わることに気付いている。

6 単元の指導計画（9時間扱い） ○数字が本時

主な学習活動	主な評価
1 学習のねらいをつかみ、広告と説明書について知る。 「お客さんが買いたくなるような日用品の広告を書く」という目的意識をもつ。	・広告と説明書について考え、学習の見通しを立てようとしている。（関心・意欲・態度）
2 広告と説明書に書かれている事柄を比べる。	・広告と説明書の書かれている事柄を比較し、その違いを文章の目的と関連付けて理解している。（読む能力）
3 広告の目的を確かめ、特徴について読み取る。	・広告の目的と特徴について整理し、読み取っている。（読む能力）
4 説明書の目的を確かめ、特徴について読み取る。	・説明書の目的と特徴について整理し、読み取っている。（読む能力）
5 広告と説明書の言葉の使い方や説明の仕方、写真や絵の使い方を比べる。	・指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解している。（言語についての知識・理解・技能） ・広告と説明書の言葉の使い方や説明の仕方、写真や絵の使い方を比較し、その違いを文章の目的と関連付けて理解している。（読む能力）
6 広告と説明書の色の使い方、順序やレイアウトを比べる。	・広告と説明書の色の使い方、書かれている順序やレイアウトを比較し、その違いを文章の目的と関連付けて理解している。（読む能力）
⑦ 好きな日用品の取扱い説明書を選び、広告を	・目的と読む相手を考え、書く事柄や書き表し方に気をつけて、広告を書いている。（読む能力）
8 を作る。	
9 作った広告を紹介し合う。	・目的と読む相手を考え、書く事柄や書き表し方に気をつけて、広告を書いている。（読む能力）

7 本時の学習

(1) 目標 日用品の取り扱い説明書から製品の優れている点を表す言葉や文を抜き出し、広告の見出しと解説の形式に再構成することができる。

(2) 準備・資料

日用品の取り扱い説明書（児童用・掲示用） ワークシート

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>お客さんが買いたくなるような広告にするには、どんなことを書けばいいのかな。 (セールスポイントの見出しと解説)</p> </div> <p>2 自力解決する。</p> <p>(1) 選んだ製品の取扱説明書を読み、広告に載せたい言葉に線を引いたり、記号をつけたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆削り ・ランドセル ・目覚まし時計 ・水筒 <p>(2) 短冊形式のワークシートに、見出しと解説を書く。</p> <p style="text-align: center;">＜予想される児童の反応＞</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○鉛筆削り「けずるくん」の商品の見出し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の技術により、約3秒で鉛筆を削ることができます。 ・削り目盛り付きなので、芯の太さを調節できます。 ・削りすぎると、それ以上削れないよう自動で止まります。 ・音が静かで、周りの人に迷惑をかけません。 </div> <p>3 同じ製品を選んだ者同士のグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に入れなければならない言葉はどれか。 ・なぜその言葉が必要か。 ・抜き出した情報をどんな順番に並べるか。 <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・他の製品にはない特徴を表す言葉を使うことが大切。 ・見出しを見ただけでどんな性能があるかが伝わる言葉を用いるとよい。 ・伝えたい順序に並べるとよい。など </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本物を提示することを通して、児童の意欲が高まるようにする。 ・「体温計」について学習した取り扱い説明書と広告について確認することを通して、説明書から書くことを選び、整理して書き表すことができるようにする。 ・前時までの学習を基に、課題解決の方法と手順について課題解決の見通しが持てるようにする。 ・線が引けない児童には、多くの人に買ってもらえるようにするという目的を確かめることを通して商品のよい所を選ぶように助言する。 ・見出しが書けない児童には、商品の特徴に観点を絞る事を通して、選んだ文を短い言葉で抜き出して書くように助言する。 ・早く終わってしまった児童には、説明書の例文と比べて読むことを通して、買い手が買いたくなるような言葉、文字の大きさ、順番になっているかを考えるように助言する。 ・同じ日用品を選んだグループに分かれて比較・検討し合うことを通して、買い手の気持ちを高めるためにどんな広告を書いたらよいか、話し合う。 ・話し合いの仕方を確認することによって、発表が苦手な児童も自分なりに伝えられるようにする。 ・話し合いの成果を生かして、自分の見出しと解説を修正できるようにする。 <p>⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の製品に勝る性能を短く表した言葉を的確に抜き出して、見出しや解説を書いている。 ・学習して分かった事や疑問に思った事、友達の良かった所などを発表するように助言する。 ・次時は、見出しについての説明文を書いたり、色を付けたりすることを確認することによって、今後の学習につなげていくようにする。